

日本語の願望・意志表現とウズベク語の *V-moqchi* の対照

A Contrastive Study of Uzbek *V-moqchi* and Desire or Intention Expressions in Japanese

日高 晋介
HIDAKA Shinsuke

Previous studies stated that *V-moqchi* in Uzbek which belongs to the Turkic Languages' Southeastern branch expresses the intention, plan, and desire. However, they have not achieved a unified description of *V-moqchi*'s meaning. This study aims to describe *V-moqchi*'s meaning, uniformly contrasting it with Japanese which expresses the intention, plan, and desire in each form. This study contrasts *V-moqchi* with the intention *-ru tumori=da* "intend to do," the desire *-sitai* "want to do," and the plan *-ru yotei=da* "plan to do" in Japanese, using the examples drawn from previous studies or the author. Thereby, this study clarified that the features of *V-moqchi* correspond to both the intention *-ru tumori=da*, and the plan *-ru yotei=da* "plan to do." Thus, this study concludes that *V-moqchi* expresses the plan.

キーワード：モダリティ、日本語、ウズベク語、願望、意志

Keywords: Modality, Japanese, Uzbek, Desire, Intention

1. はじめに

ウズベク語 (チュルク諸語南東語群) の *V(erb stem)-moqchi* は、ウズベク語の参照文法 (Kononov 1960, Bodrogligeti 2003) によれば、意志を表す形式であるとされる。日高 (2021) では「確立された意向」(森山 1990) あるいは計画を表すこと、Hidaka (2024) では実現可能性のある願望を表すことがそれぞれ指摘されているが、*V-moqchi* の意味の統一的な記述には至っていない。本研究は、意志あるいは意向・計画・願望がそれぞれ別形式で表現される日本語と対照することで、*V-moqchi* の表す意味を統一的に記述することを目的とする。本稿では、意志「～するつもりだ」・願望「～したい」・計画「～する予定だ」を、日高 (2021) と Hidaka (2024) に記載された、あるいは作例による *V-moqchi* が含まれた文と対照を行う。対照の結果、*V-moqchi* が示す特徴はおおむね「～するつもりだ」が示す特徴に合致するが、「～する予定だ」が示す特徴も持つこと、つまり、話し手以外の人々の合意によって行う

ことが決定された事象にも用いられることが明らかとなった。以上より、*V-moqchi* は予定・計画を表すと結論付ける。

本稿の構成は次の通りである。2節で先行研究を概観し、問題提起を行い、3節で対照を行い、その結果をもとに、4節で考察と結論を述べる。なお、例文番号・グロス・日本語訳・太字などの文字飾りは筆者による。ウズベク語は、先行研究の表記方法に拠らずラテン文字表記に統一する。

2. 先行研究と問題提起

まず、ウズベク語の参照文法書 (Kononov 1960, Bodrogligeti 2003) による、*V-moqchi* が意志を表すという記述と、*V-moqchi* の否定ならびに過去について述べる。次に、*V-moqchi* の本質的な意味は「確立された意向」(森山 1990) を表すとした日高 (2021) と、願望を表す形式の使い分けを明らかにした Hidaka (2024) のうち *V-moqchi* に関する記述について取り上げる。基本的に、日高 (2021) と Hidaka (2024) に挙げたウズベク語の例は筆者による作例であり、これらの作例とその日本語訳をウズベク語母語話者に提示し、許容度判断を仰いでいることに注意されたい。最後に、以上の研究の問題点を述べて問題提起を行う。

参照文法書では、*V-moqchi* は意向を表す形式 (Kononov 1960: 278) あるいは意志法を表す形式 (Bodrogligeti 2003: 708) であるとされている。

(1) *Sen-ga bir yaxshilik qil-moqchi=man.*

2SG-DAT one goodness do-INT=1SG

‘Я желаю тебе сделать добро’

「私は君にひとつよいことをしたい。」(Kononov 1960: 279)

加えて、Bodrogligeti (2003: 708) は、意志法を表す形式である *V-moqchi* は何かをする、あるいは何かをしないという話者の決意を表す (The intentive mood expresses the speaker's resolve to do or not to do something) と述べている。

(2) *U maktab-da ol-gan o'z nazariy bilim-lar-i-ni*

3SG school-LOC take-PTCP.PAST own theoretical knowledge-PL-3.POSS-ACC

tajriba-da qo'lla-b yetuk jurnalist bo'l-moqchi.

experience-LOC use-CVB.SEQ mature journalist become-INT

「彼女は学校で得た自身の理論的な知識を実際に用いて、立派なジャーナリストになりたい¹。」(Bodrogligeti 2003: 709)

V-moqchi は、*emas* を後置することで否定を表し、*edi* を後置することで過去時制を表すことができる。次に否定、過去、否定過去の例をそれぞれ挙げる：*yoz-moqchi emas=man* [write-INT NEG=1SG] ‘(я) не намерен (на)писать’ 「書くつもりではない」、*yoz-moqchi edi-m* [write-INT PAST-1SG] ‘(я) намеревался || предполагал (на)писать’ 「書くつもりだった」、*yoz-moqchi emas edi-m* [write-INT NEG PAST-1SG] ‘(я) не намеревался (на)писать’ 「書くつもりではなかった」(Kononov 1960: 279)。

日高 (2021) は、日本語学におけるモダリティについての研究成果 (森山 1990) を援用して、*V-moqchi* の本質的な意味は「確立された意向」を表す、と述べている。森山 (1990: 9) は、(3) を挙げて、この例は不自然だとしたうえで、「このように、「～するつもりだ」の場合、確立された意向が、談話とは独立して存在し、記憶されていることになり、談話内部での変更は受けない」と述べている。

(3) ?? では、私は、明日 3 時に研究室に伺うつもりです。

ウズベク語でも、談話内部で話者の意志が確立される場合に *V-moqchi* の使用が不自然となる。(4) は、A と B の会話である。

(4) A: *Kim=dir u yer-ga bor-ib, un-ga yordamlash-ib*
 who=IND that place-DAT go-CVB.SEQ 3SG-DAT help-CVB.SEQ

yubor-ol-ma-y-di=mi?

send-POT-NEG-NPST=Q

「誰かそこに行って彼を手伝ってくれないか？」

B: ?? *Bo'l-di, men bor-moqchi=man*

be-PAST 1SG go-INT=1SG

「わかりました、私が行きます。」(日高 2021)

¹ 筆者は、Bodrogligeti (2003: 709) による英訳 ‘Applying in practice the theoretical knowledge she has obtained in school she wants to become an able journalist.’ の下線部を日本語訳する際に、「立派なジャーナリストになりたい」と訳出した。

日高 (2021) は、次の例を挙げながら *V-moqchi* が「計画」も表すとしている。(5) はウズベク語によるウェブニュース記事の見出しである。

(5) *O'zbekiston 2020 yil-gacha eksport hajm-i-ni*
 Uzbekistan year-until export quantity-3.POSS-ACC

25 milliard dollar-ga yet-kaz-moqchi.
 billion dollar-DAT reach-CAUS-INT

「ウズベキスタンは2020年までに輸出量を250億ドルに到達させる予定である。」

(日高 2021; <https://www.ozodlik.org/a/27355234.html> [最終閲覧日: 2024/01/21])

(5) は「予定である」と訳出したが、日高 (2021) では (5) が挙げられたのみでこの訳出に対して特にコメントはない。(5) については、3.3 節で再度述べる。

Hidaka (2024) では、願望を表す三形式 (*V-moqchi*, *V-gi kel-* 「lit. V することが来る」、*V-(i)sh-ni xohla-* 「lit. V することを欲する」) の使い分けを明らかにした。本稿では、*V-moqchi* に関する記述のみを取り上げる。Hidaka (2024) では、*V-moqchi* は、実現可能性がある事象にのみ用いられるとされている。(6) と (7) では、子供時代に戻る／鳥になるという実現可能性がない事象に対して *V-moqchi* が用いられないことが示されている。

(6) **Bolalik payt-im-ga qayt-moqchi=man.*
 childhood time-1SG.POSS-DAT return-INT=1SG
 「子供のころに戻りたい。」 (Hidaka 2024: 28)

(7) **Men qush bo'l-moqchi=man.*
 1SG bird be-INT=1SG
 「私は鳥になりたい。」 (Hidaka 2024:28)

これまで本稿で挙げてきたように、*V-moqchi* は意志 ((1), (2))、確立された意向 (4)、計画 (5)、実現可能性が高い事象に対する願望 ((6), (7)) を表すと指摘されてきたが、*V-moqchi* の意味の統一的な記述には至っていない。本稿では、意志「～つもりです」、願望「～したい」、計画「～する予定だ」がそれぞれ別形式で表される日本語と対照することで、*V-moqchi* の表す意味を統一的に記述する。

3. 対照方法・結果

3.1 節で意志「～つもりです」、3.2 節で願望「～したい」、3.3 節で計画「～する予定だ」のそれぞれについて、対応するウズベク語の文と対照する。本稿の対照に用いるウズベク語の文は、日高 (2021) と Hidaka (2024) で挙げられた文と、筆者の作例による文である。筆者の作例は 3.1 節で取り上げる。作例の詳細は次のとおりである：コントロール不可能である事象 (気候と生理現象各 2 例ずつ) と「～と思う」3 例について、筆者がウズベク語の文を作例し、ウズベク語母語話者²にそれらの作例の許容度について判断を仰いだ。

3.1. 意志「～するつもりだ」との対照

まず、2 節で先述した、談話内部で話者の意志が確立される場合について再度述べ、次に、*V-moqchi* が無意志の動作も表せるかどうか、*V-moqchi* が心内発話を表す引用動詞「～と思う」によって埋め込まれる文に用いられるかどうかについて述べる。

2 節では、下記の (8) (= (4)) を挙げて、談話内部で話者の意志が確立される場合について *V-moqchi* の使用が不自然になると述べた。

(8) A: *Kim=dir u yer-ga bor-ib, un-ga yordamlash-ib*
 who=IND that place-DAT go-CVB.SEQ 3SG-DAT help-CVB.SEQ

yubor-ol-ma-y-di=mi?
 send-POT-NEG-NPST=Q

「誰かそこに行って彼を手伝ってくれないか？」

B: ?? *Bo'l-di, men bor-moqchi=man*
 be-PAST 1SG go-INT=1SG

「わかりました、私が行きます。」 (= (4))

この場合、森山 (1990: 9) が述べるように「～するつもりだ」の使用も不自然である。

(9) ?? では、私は、明日 3 時に研究室に伺うつもりです。(= (3))

2 節で挙げた先行研究では *V-moqchi* が無意志の動作を表すかどうかは明らかにされていない。本節では、主語の意志によるコントロールが不可能である事象として、気候と生理

² 1994 年生、ウズベキスタン共和国、タシケント市出身の女性と、1989 年、ウズベキスタン共和国、タシケント市出身の男性。

現象を取り上げる。日本語では「*今日風が吹くつもりだ」「*暑くて汗をかくつもりだ³」とは言えない。ウズベク語でも「風が吹く」(10)、「暑くて汗をかく」(11)には *V-moqchi* が用いられない。

(10) **Bugun kuchli shamol es-moqchi*

today strong wind wind-INT

(11) **Ertaga xavo issiq bo'l-a=di. Shu-ning uchun, ko'p terla-moqchi.*

tomorrow weather hot be-NPST=3 that-GEN for much sweat-INT

したがって、*V-moqchi* はその主語がコントロール不可能である事象には用いられないと言える。

仁田 (1991: 208-209) では、心内発話を表す引用動詞「~と思う」が話し手の意志を表す場合の「~するつもりだ」を含む文を埋め込めないと指摘している。これは「~するつもりだ」が聞き手の存在する対話状況でしか使えない形式であることを示しているという (仁田 1991: 208)。(12a) と (12b) に挙げたように、*V-moqchi* も *deb o'yla-y=man* 「~と思う」で埋め込むことができない。*deb o'yla-y=man* 「~と思う」で埋め込む場合は、埋め込まれる側の節の述語を非過去形にしなければならない (12c)。

(12) a. **Men qattiq harakat qil-moqchi=man deb o'yla-y=man.*

1SG hard action do-INT=1SG QT think-NPST=1SG

b. *Men qattiq harakat qil-moqchi=man.*

1SG hard action do-INT=1SG

「私は努力するつもりだ。」

c. *Men qattiq harakat qil-a=man deb o'yla-y=man.*

1SG hard action do-INT=1SG QT think-NPST=1SG

「私は努力しようと思った (lit. 努力すると思った)」

したがって、ウズベク語 *V-moqchi* が話し手の意志を表す場合、日本語の場合と同様に、聞き手のいる対話状況でしか用いられないと言える。

³ 適切な状況を設定すれば「汗をかくつもりだ」も言えることに注意されたい。例えば、意志を持って動作した結果として汗をかくことはできるので、「今日は運動して汗をかくつもりだ。」と言うことができる。

以上、本節では、*V-moqchi* が、1. 談話内部で話者の意志が確立される場合に用いられないこと、2. 主語の意志ではコントロールできない事象には用いられないこと、3. 話し手の意志を表す場合、心内発話を表す引用動詞「～と思う」には埋め込まれないことを示した。

「～するつもりだ」も上記1.～3. の特徴を持つ。

3.2. 願望「～したい」との対照

2 節で *V-moqchi* は話者が実現可能性があると考えている事象にのみ用いられると述べた。Hidaka (2024) から (13) と (14) に例を挙げる。

- (13) *Pul yig'-ib, ayol-im va farzand-lar-im-ni*
 money gather-CVB.SEQ woman-1SG.POSS and child-PL-1SG.POSS-ACC

Yaponiya-ga chaqir-moqchi=man.

Japan-DAT call-INT=1SG

「私はお金を貯めて、妻子を日本に呼びたい。」(Hidaka 2024: 27)

- (14) *Grant yut-ib, Yaponiya-dagi universitet-ga o'qi-sh-ga bor-moqchi=man.*
 grant win-CVB.SEQ Japan-ADJLZ university-DAT study-VN-DAT go-INT=1SG

「奨学金を取って、日本の大学に留学したい。」(Hidaka 2024: 27)

一方、*V-moqchi* は話者が実現可能性がないと考えている事象には用いられない。(15) (= (6)) と (16) (= (7)) を再掲する。

- (15) **Bolalik payt-im-ga qayt-moqchi=man.*
 childhood time-1SG.POSS-DAT return-INT=1SG

「私は子供のころに戻りたい。」(再掲)

- (16) **Men qush bo'l-moqchi=man.*
 1SG bird be-INT=1SG

「私は鳥になりたい。」(再掲)

以上のように、*V-moqchi* は話者が実現可能性があると考えている事象にのみ用いられるが、「～したい」は話者が実現可能性が高いとも低いとも考えている事象に用いられると言える。

3.3. 計画「～する予定だ」との対照

2 節で、ウズベク語によるウェブニュース記事の見出しの例 (5) を挙げた。下記 (17) に再掲する。

(17) *O'zbekiston 2020 yil-gacha eksport hajm-i-ni*
Uzbekistan year-until export quantity-3.POSS-ACC

25 milliard dollar-ga yet-kaz-moqchi.
billion dollar-DAT reach-CAUS-INT

「ウズベキスタンは 2020 年までに輸出量を 250 億ドルに到達させる予定である。」

(再掲)

庵・高梨・中西・山田 (2001: 236) は「つもりだ」が話し手の個人的な心づもりを表すのに対し、「予定だ」は他の人と相談の上決めたことや公的な決定事項を表す」と述べている。(17) は公的な決定事項を表しているため、日本語訳に「～するつもりだ」を用いることはできない。したがって、*V-moqchi* は、他の人と相談の上決めたことや公的な決定事項を表すこともできると言える。

4. 結論

表 1 に 3 節での対照の結果をまとめ、*V-moqchi* の表す意味を統一的に記述する。

表 1: *V-moqchi* と「～するつもりだ」「～したい」「～する予定だ」との対照結果

			<i>V-moqchi</i>	例文
3.1 節	意志 「～するつもりだ」	1. 談話内部で話者の意志が確立される場合に用いられない	○	(8)
		2. 主語の意志ではコントロールできない事象には用いられない	○	(10), (11)
		3. 話し手の意志を表す場合、心内発話を表す引用動詞「～と思う」には埋め込まれない	○	(12)
3.2 節	願望「～したい」	4. 話者が実現可能性があると考えている事象に用いられる	○	(13), (14)
		5. 話者が実現可能性がないと考えている事象に用いられる	×	(15), (16)
3.3 節	計画 「～する予定だ」	6. 他の人と相談の上決めたことや公的な決定事項を表す	○	(17)

3節での対照に用いた特徴である表1の1.~6.に沿って、*V-moqchi*の特徴を考察する。

1. 談話内部で話者の意志が確立される場合に用いられない：3.1節の(9)(=2節の(3))で示したように、森山(1990:9)によれば、「～するつもりだ」は、談話内部で話者の意志が確立される場合に用いられないことを根拠に、確立された意向を表す、としている。*V-moqchi*も(8)(=4))に示したように、談話内部で話者の意志が確立される場合に用いられないことを示すため、談話以前に確立した意向を表すと言える。

2. 主語の意志ではコントロールできない事象には用いられない：*V-moqchi*は、3.1節で挙げた(10)「強い風が吹く」と(11)「暑くて汗をかく」に用いられないことを根拠に、主語の意志ではコントロールできない事象には用いられないことを明らかにした。したがって、*V-moqchi*はその主語がコントロール可能である事象に用いられると言える。これは「～するつもりだ」も同様である。

3. 話し手の意志を表す場合、心内発話を表す引用動詞「～と思う」には埋め込まれない：2節と3.1節で挙げたように、仁田(1991:208-209)では、心内発話を表す「～と思う」が話し手の意志を表す場合の「～するつもりだ」を含む文を埋め込まないことを根拠に、「～するつもりだ」が聞き手のいる対話状況でしか使えない形式であると述べている。同様に、*V-moqchi*も(12)に示したように *deb o'yla-y=man*「～と思う」で埋め込むことができないことから、聞き手の存在を前提としていることを明らかにした。

4. 話者が実現可能性があると考えている事象に用いられ、5. 実現可能性がないと考えている事象には用いられない：「～したい」は実現可能性に関わらず用いられるが、*V-moqchi*は実現可能性がある事象にのみ用いられる。これは、上記1.の末尾で述べた「談話以前に確立した意向を表す」に関連した特徴であると言える。なぜなら、そもそも実現可能性がない事象には意向を持つことができないためである。

5. 他の人と相談の上決めたことや公的な決定事項も表す：3.3節で挙げた、庵・高梨・中西・山田(2001:236)による説明を再度参照すると、「つもりだ」が話し手の個人的な心づもりを表すのに対し、「予定だ」は他の人と相談の上決めたことや公的な決定事項を表すという。(17)で示したように、*V-moqchi*は、他の人と相談の上決めたことや公的な決定事項を表すこともできる。

したがって、*V-moqchi*は、下記の3つの語用論的な特徴を持つと言える：

- ① 主語が発話前から成立を目指していると想定される命題に付く
- ② *V-moqchi*が付く命題は、話し手個人が想定する事象でも、話し手以外の人々の合意によって行うことが決定された事象でもよい
- ③ 聞き手の存在を前提としている

つまり、*V-moqchi* は、話し手個人の想定による主語の意志・意向のみを表すというよりも、予定・計画を表すと結論付ける。このように結論付けることで、*V-moqchi* が話し手以外の人たちによって決められた事象にも用いられることが説明できる。

謝辞

本稿の調査にご協力いただいたインフォーマントの方に深謝申し上げます。また、菱山湧人氏に修正前の本稿を読んでいただき、大変有益なコメントをいただくことができた。菱山氏に感謝申し上げます。ただし、本稿における誤りは全て筆者に帰するものである。

なお、本研究は、日本学術振興会科研費 JP22J01538, JP22KJ1443 の助成を受けている。

略号一覧

=		接語境界	LOC	locative	与格
-		接辞境界	NEG	negative	否定
1		一人称	NPST	non-past	非過去
2		二人称	PAST	past	過去
3		三人称	PL	plural	複数
ACC	accusative	対格	POSS	possessive	所有
ADJLZ	adjectivalizer	形容詞化	POT	potential	可能
CAUS	causative	使役	PTCP	participle	形動詞
CVB	converb	副動詞	Q	question	疑問
DAT	dative	与格	QT	quotative	引用
GEN	genitive	属格	SEQ	sequential	継起
IND	indefinite	不定	SG	singular	単数
INT	intensive	意志	VN	verbal noun	動名詞

参考文献

- Bodrogligeti, András J. E. (2003) *An academic grammar of Modern Literary Uzbek*. München: Lincom Europa.
- 日高晋介 (2021) 「ウズベク語における *V-moqchi* の本質的な意味」言語学フェス 2021 ポスター.
- Hidaka, Shinsuke (2004) On the use of three forms expressing desire in Uzbek. Kogura, Norikazu and Kumiko Sato (eds.) *Aspects of Turkic Grammar 2: Information Structure and Knowledge Management*. 19-32. Fuchu: ILCAA.
- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 (2001) 『中上級を教える人のための日本語ハンドブック』東京: スリーエーネットワーク.

- Kononov, A. N. (1960) *Grammatika sovremennogo Uzbekskogo literaturnogo iazyka*. [現代標準ウズベク語文法] Moskva, Leningrad: Izdatel'stvo akademii nauk SSSR.
- 森山卓郎 (1990) 「意志のモダリティについて」『阪大日本語研究』2: 1-19.
- 仁田義雄 (1991) 『日本語のモダリティと人称』東京: ひつじ書房.